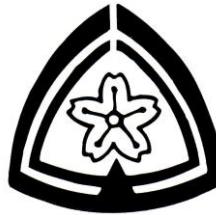


令和 7 年度
(2025 年度)

「運営に関する計画」

学校目標

「学びに向き合い、心豊かにたくましく生きる子を育てる」



中間評価

大阪市立出来島小学校
令和 7 年 10 月

大阪市立出来島小学校 令和 7 年度 運営に関する計画・自己評価（総括シート）

1 学校運営の中期目標

現状と課題**【安全・安心な教育の推進】**

令和 5 年度大阪市小学校学力調査において、「学校のきまりを守っていますか」の項目について肯定的な回答をした児童の割合は 90.9% であった。

「ルールを守る」といった基本的なモラルを定着させていく規範意識、社会性の育成を継続的に行っていく必要がある。また、いじめや問題行動を生み出さないよう、人権教育や道徳教育を中心に、学校教育活動全体を通して互いに支え合うといった意識を高め、温かい人間関係を構築していくことも必要である。

これまで、学年の発達段階に応じた体験学習や地域の方々との交流、ゲストティーチャーとの学習などを通して他者への理解や思いやりを育む活動に取り組んできた。今後も高めていくことが豊かな心の育成には大切であると考える。

自分たちが住んでいる地域、西淀川区は大規模災害や自然災害に弱い土地柄である。そこで、防災・減災について目を向け、意識を高めていく学習を継続的に行う。保護者や地域に開かれた学校経営を行い、教育コミュニケーションの核として学校が役割を果たしていく。

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

令和 5 年度において、国語科単元テスト全学年平均点が 80.5 点と指標を上回り、学習内容の定着が見られた。また、大阪市小学校学力経年調査においても、大阪市平均を上回る学年（3 年：社・算・教科合計、4 年：算）もあった。しかし、全国学力・学習状況調査においては、大阪市平均を下回り、児童が身に付けてきた知識を活用するまでには至っていない。新学習指導要領で求められている「主体的・対話的で深い学び」に向けて、令和 4 年度より、全児童に「自主学習ノート」を配付し、「自分の言葉でまとめて書く力」を向上させる取組みを行っている。教科を問わず、児童が興味・関心をいだいた内容から取り組めることから、児童の主体性が育ってきている。今後も継続し、さらに協働的な学びへと取り組ませたい。

全国体力・運動能力、運動習慣調査では、男子、女子ともに合計点が全国平均を上回った。

しかし、児童アンケート「体育の時間はがんばって運動している」と肯定的な回答は 76% にとどまっている。運動やスポーツをすることに対して肯定的に捉える児童を増やし、体力・運動能力の一層の向上を目指す。

【学びを支える教育環境の充実】

令和 3 年度、一人一台端末の配布が終了し、校内の ICT 環境が整備・充実した。協働的な学び、個別最適化の学習へと取り組んでいきたい。

令和 5 年度の月の時間外労働平均時間は、依然として 20 時間にも及んでいる。時間外労働をなくすことで、教員の授業準備や社会の見識を深めたり、ICT 技術を磨いたりする時間を生み出し、児童の学力向上を実現する。

中期目標

【安全・安心な教育の推進】

- 令和7年度の小学校学力経年調査における「学校のきまり・規則を守っていますか」の項目について、肯定的に答える児童の割合を90%以上にする。
- 令和7年度末の児童アンケートの「自分には良いところがある」の項目について、肯定的に答える児童の割合を、前年度より増加させる。

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

- 令和7年度末の小学校学力経年調査における標準化得点を、令和3年度より向上させる。
- 特に課題である立ち幅とびの記録を、令和7年度の全国体力・運動能力、運動習慣調査において、大阪市平均以上にする。

【学びを支える教育環境の充実】

- 令和7年度の全国学力・学習状況調査の「5年生のときに受けた授業で、コンピュータなどのICT機器をどの程度使用しましたか」の項目について、「ほぼ毎日」と答える児童の割合を、90%以上にする。
- 令和7年度末の保護者アンケートの「学校は、手紙やホームページを通して情報公開をよく行っている」と答える保護者の割合を90%以上にする。

2 中期目標の達成に向けた年度目標（全市共通目標を含む）

【安全・安心な教育の推進】

- 小学校学力経年調査における「学校の決まりを守っていますか」に対して、肯定的に回答する児童生徒の割合を、91%以上にする。
★R06:校内児童アンケート（1・2年）100%、経年調査（3～6年）77.4%
- 小学校学力経年調査における「自分には、よいところがあると思いますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を81%以上とする。
★R06:校内児童アンケート（1・2年）100%、経年調査（3～6年）71%

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

- 小学校学力経年調査における、国語の平均正答率の対全国比を、同一母集団において縦的に比較し、いずれの学年も前年度より0.02ポイント向上させる。
★R06:3年生（現4）0.904 4年生（現5）0.972 5年生（現6）0.980
- 小学校学力経年調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と回答する児童の割合を80%以上にする。
★R06:校内児童アンケート（1・2年）81%、経年調査（3～6年）77.4%

【学びを支える教育環境の充実】

- 授業日において、児童の8割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の78%以上にする。
★R06:77.6%
- 第2期「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間の上限に関する基準1（「1か月の時間外勤務時間が45時間を超えない」及び「1年間の時間外勤務時間が360時間を超えない」）を満たす教員の割合を93%以上にする。
★R06:92.0%

3 今年度の自己評価結果の総括

【安全・安心な教育の推進】

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

【学びを支える教育環境の充実】

大阪市立出来島小学校 令和7年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準 A : 目標を上回って達成した	B : 目標どおりに達成した
C : 取り組んだが目標を達成できなかった	D : ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

【安全・安心な教育の推進】

年度目標	進捗状況
<ul style="list-style-type: none"> ○ 小学校学力経年調査における「学校の決まりを守っていますか」に対して、肯定的に回答する児童生徒の割合を、82%以上にする。 ○ 小学校学力経年調査における「自分には、よいところがあると思いますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を 73%以上とする。 	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
取組内容①【基本的な方向1 安全・安心な教育環境の充実】 当該月の生活目標を児童に周知し、規範意識を高める。 【指標】 月目標を守るための「出来るんジャースタンプカード」を実施し、レベル3に達する児童の割合を 70%以上にする。	B
取組内容②【基本的な方向2 豊かな心の育成】 全学年において社会体験や多様な体験活動を実施することを通して、生きる力を育成する。 【指標】 各学年、年間3回以上、社会体験や多様な体験活動を実施する。	B

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析

取組内容①【基本的な方向 1 安全・安心な教育環境の充実】

- 「チャイムの時間を守っている」は 90%を超えている。
 - ・予鈴がなることで時間を守れるようになってきた。
- 「廊下を歩いている」「授業の準備をしてから休憩している」が 82%を下回っている。
 - ・時間を守る以外の学校生活の決まりを守るということに関しては、守ろうという意識が薄い。
- 「出来るんジャースタップカード」
 - ・レベル 2 に達している児童 64%、レベル 3 に達している児童 41%だった。
 - ・レベルをクリアした児童を紹介することで自分の頑張りを認められ、規範意識は少し上がっているように感じるが、一枚やり切っても見える形で達成感を感じにくく一部の児童だけが続いている状態である。
 - ・月目標を朝会で確認したり、各クラスで指導を続けたりして、毎月の生活目標を児童にさせ、意欲的に取り組むことができている。
- 児童アンケートで「自分にはよいところがあると思う」の項目も 84, 9%となっている。

取組内容②【基本的な方向 2 豊かな心の育成】

- それぞれの学年で、体験活動が計画されている。
- 様々な社会体験や多様な体験活動を実施している。

年度末にむけて

取組内容①【基本的な方向 1 安全・安心な教育環境の充実】

- スタンプカード
 - ・今まで通りの目標を大きくなくくりに学年やブロック、必要に応じて個別に達成できるような目標を設定するなどの工夫が必要なのではないか。
 - ・児童のモチベーションが上げるために、各レベルをクリアするごとに子どもたちにとってご褒美があればよいのではないか。（レンジャーを集める、シールなど）
 - ・生活目標は、意識できてもそれ以外の決まりを守ろうという意識が薄いため、毎月の目標以外での目標も常に意識できるようにさせていく必要がある。
 - ・達成者として名前を呼ばれると喜ぶ児童も見られたため続けていく。
 - ・達成度のデータがあるとわかりやすい。
 - ・児童アンケートに項目を入れる。

取組内容②【基本的な方向 2 豊かな心の育成】

- 実施に向けて事前準備・調整に時間はかかるが、子どもの成長に伴った計画を実施していく。
- 体験したことが今後の様々な取り組みに生かせるように体験で何を学び、その学びを通して今後どうしていくかを考えられるようにする。

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

年度目標	進捗状況
<ul style="list-style-type: none"> ○ 小学校学力経年調査における、国語の平均正答率の対全国比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より 0.02 ポイント向上させる。 ★R06: 3 年生（現 4）0.904 4 年生（現 5）0.972 5 年生（現 6）0.980 ○ 小学校学力経年調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と回答する児童の割合を 70% 以上にする。 ★R06: 校内児童アンケート（1・2 年）81%、<u>経年調査（3～6 年）68.8%</u> 	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
取組内容①【基本的な方向 4 誰一人取り残さない学力の向上】 校内研究の視点に基づいて、指導法を工夫する。	B
【指標】 言葉や文字、パソコンへの入力など、児童が自分の考えを表現する活動を 1 日 1 回以上設ける。	B
取組内容②【基本的な方向 4 健やかな体の育成】 運動強調週間を設け、運動への関心・意欲を高める。	B
【指標】 年間 2 回以上、運動強調週間を設けるとともに、運動がんばりカードを用いて、実施後の記録が実施前の記録を上回る児童の割合を 70% 以上にする。	

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析

取組内容①【基本的な方向 4 誰一人取り残さない学力の向上】

- 各学級で、学習者用端末を使って自分の考えを表現する授業づくり（スライド作り等）が様々な教科で行われたり、授業中や朝の会、帰りの会でスピーチやいいとこ見つけなどの自分の考えを表現・発表の機会を設定たりしている。その結果、児童アンケートの「自分の考えを伝えている」の項目で肯定的に答えた児童の割合が75%となっている。
- 研究の視点に基づき、児童が学習課題や学習方法・学習活動などを、学習の定義や興味・関心に応じて選択したり設定したりする「個別最適な学び」や、児童が多様な他者とともに活動することで考えを広め、深めることができる「協働的な学び」の研究を進めている。また、各学年で「今年1年間でつけたい力」を考え、そのために1年間どんな活動を続けるかを決めて指導法を工夫しながら取り組んでいる。
- パソコンを活用することで、発表が苦手な児童も発表することができている。

取組内容②【基本的な方向 4 健やかな体の育成】

- 校内アンケート「運動やスポーツをすることが好きだ」の項目で肯定的な回答をする児童の割合が84%だったため、現時点では指標を達成しているが、学年が上がるごとにその割合が下がっている。体育などの苦手意識から肯定的な意見が下がっていると考えられる。
- 年2回以上の運動強調週間では、それぞれの実施前の記録をとっていく段階である。児童アンケートでは運動への関心・意欲を高める「運動やスポーツをすることが好きだ」という回答が84%となっていて、教科としての体育の学習を意欲的に取り組めていると考えられる。
- 児童集会や体育の時間に大縄跳びに取り組んだことで、休み時間に取り組む児童が増えた。

年度末にむけて

取組内容①【基本的な方向 4 誰一人取り残さない学力の向上】

- 1日1回という指標が児童アンケートからは分かりづらいので、活動や指標に工夫が必要である。
- 学齢に合った、考えを表現する作文や語彙を増やすための学習も必要である。
- 個々に応じた学習や表現の仕方ができるような仕掛けを講じていく。
- 研修や各学級での具体的な取り組みを共有し、教員自身の引き出しを増やしていく。

取組内容②【基本的な方向 4 健やかな体の育成】

- 縄跳び運動はとびなわを使って多様な動きを取り入れ、親しみやすくすると同時に頑張りカード等で目標をもって取り組ませていく。
- 授業の中で、跳び箱、マット運動、鉄棒、プール学習などで、目標をもって取り組めるような「がんばりカード」を活用してはどうか。
- 自分の記録が可視化されることで、達成感につながるので、今後も続けていく。
- 前期に強調週間がないが、暑さ指数の影響で休み時間に体を動かすことができないときもあるので、制限された中で体を動かすことの楽しさを感じられる工夫が必要となっている。
- 強調週間は、学級で取り組むだけでは意欲の向上とまでは言いにくい部分もあるので、学校全体で取り組むことができれば、普段休み時間に外に出にくい児童も出るきっかけになるのではないか。
- 肥満傾向の児童の割合が増えている。

【学びを支える教育環境の充実】

年度目標	進捗状況
<ul style="list-style-type: none"> ○ 授業日において、児童の8割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の78%以上にする。 ○ 第2期「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間の上限に関する基準1（「1か月の時間外勤務時間が45時間を超えない」及び「1年間の時間外勤務時間が360時間を超えない」）を満たす教員の割合を93%以上にする。 	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
取組内容①【基本的な方向6 教育DXの推進】 朝学の時間などで、デジタルドリルやタイピングの学習、心の天気の入力を行い、積極的な学習用端末の活用を図る。	A
【指標】 校内児童アンケート「日々の授業の中で、学習者用端末を活用している」の項目で、「ほぼ毎日」と回答する児童の割合を78%以上にする。	B
取組内容②【基本的な方向7 人材の育成としなやかな組織づくり】 校時や会議をさらに見直し、放課後の時間の確保に努める。 【指標】 月ごとの時間外勤務時間が45時間を超える教員の人数を、前年度以下にする。	B

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析

取組内容①【基本的な方向 6 教育 DX の推進】

- デジタルドリル、スタディサプリ、タイピングに加え、各教科での利用や毎日の持ち帰りがあることから、学習用端末の活用の数値が90%前後を記録しており、現時点では指標を達成している。
- 学習用端末の使用を日常化することで、授業中の活用も苦手意識をもつことなく使用することができている。また、効果的な活用を意識した授業を展開することができている。
- 1年生が新端末配備により、9月上旬から心の天気を入力することができるようになっている。
- 心の天気の入力は、各担任が積極的に声掛けをしているため実施できている学級が多いが、入力に差があるので現状である。
- 何においても活動時間が限られている中、心の天気等、やらなければいけないことが増えているため余裕の無さを感じる。

取組内容②【基本的な方向 7 人材の育成としなやかな組織づくり】

- 「月ごとの時間外勤務時間が45時間を超える教員の人数を前年度以下にする」という項目に対して、7月時点の結果として45時間を超える人数が昨年度と同等である。
- 週に1回のゆとりの日が確保されている。また、ゆとりの日を意識して仕事をすることができている。
- 授業終了の時間が早くなつたため、会議や研修等の開始時間を早く設置することができているよう感じられる。

年度末にむけて

取組内容①【基本的な方向 6 教育 DX の推進】

- 毎日、心の天気の入力をするよう声を掛けていくようとする。
- 引き続き、長期休暇の課題や朝学、日々の宿題において、デジタルドリルやスタディサプリ、タイピング等の学習を取り入れ、学習用端末の活用を積極的に行っていくようとする。
- 児童用教科書にもQRコードがあるので活用していくようとする。
- 今後もICT研修を通して、効果的なICTの活用方法を学ぶようとする。
- 指標の割合数値を来年度はもう少し上げることを検討してみてもよい。

取組内容②【基本的な方向 7 人材の育成としなやかな組織づくり】

- 教職員一人ひとりの時間の使い方の有効化を図るために、引き続き時差勤務制度を継続していく。
- 全教職員が働き方改革を意識して校務分掌や日々の業務が偏らないよう、分担・分業する。
- 一人ひとりの負担を減らし、放課後の時間を確保できるよう、削減して支障が出ないものに関しては、会議、業務や行事の精選・削減を行っていく必要がある。